

# 世界子ども水フォーラム フォローアップ in 福岡

Children's World Water Forum  
Follow Up In Fukuoka



世界子ども水フォーラム  
フォローアップ in 福岡 実行委員会

## 事務局

財団法人河川環境管理財団

子どもの水辺サポートセンター

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9  
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F

TEL:03-5847-8307 FAX:03-5847-8314  
<http://www.mizube-support-center.org>  
<http://www.kasen.or.jp>

# CONTENTS もくじ

大会プログラム	1
開催趣旨・開催目的・開催概要	2
大会の様子1日目	3
大会の様子2日目	7
大会の様子3日目	9
第1分科会	11
第2分科会	13
第3分科会	15
第4分科会	17
第5分科会	19
第6分科会	21
世界子ども水フォーラム・ フォローアップin福岡に参加して (大会のアンケート結果より)	23
関連ウェブサイトの紹介・参加者一覧	25
実行委員・運営スタッフ一覧	26

# PROGRAM 大会プログラム

## 8/6 月 PROGRAM

12:30 受付開始 (JR博多駅)

13:30 JR博多駅出発(バスにて移動)

15:00 開会式

- 開会宣言 (筑前町中学生4名)
- 開会挨拶 (鈴木井委員長)
- 歓迎挨拶 (手柴委員)
- 実行委員紹介
- 開催趣旨説明
- 記念撮影

15:30 開会式

- スケジュールの説明
- 本大会の注意事項
- 館内利用の注意事項

15:50 アイスブレイク

- 全スタッフ紹介
- 名刺交換会

16:45 夕食+交流会

- バーベキュー
- 交流会

18:30 分科会1

- 6分科会にグループ分け
- 自己紹介レポート発表
- 各グループでのWS

21:30 就寝

## 8/7 火 PROGRAM

6:30 起床

7:00 朝食・体験活動出発準備

8:00 体験活動

- 2班に分れて体験活動
- 1.筑後川河口乗船コース
- 2.筑後川中流三連水車コース

12:45 昼食

15:50 分科会2

- 体験活動振り返り
- 各グループでのWS

18:00 夕食

- 各グループで食事

19:00 分科会3

- 各グループでのWS
- 各グループで発表準備
- 各グループ成果取りまとめ

21:30 就寝

## 8/8 水 PROGRAM

6:30 起床

7:00 朝食・後片付け等退所準備

8:00 全体発表会

- 各グループによる発表

11:00 閉会式(ラーニングルーム7)

- 講評 (鈴木井委員長)
- 子ども代表挨拶
- (北海道高校生1名)
- 閉会挨拶 (久保田委員)
- 記念撮影

12:00 出発

13:30 JR博多駅・福岡空港解散

# 開催趣旨

日本をはじめ世界におけるさまざまな水問題の解決には多くの時間と労力が必要であることから、平成15年3月に日本で開催された「第3回世界水フォーラム」の主要セッションとして「世界子ども水フォーラム」を開催しました。

ここに参加した日本の子どもたちは、世界の深刻で危機的な水問題を実感し、大きな衝撃を受けました。そこで、自分たちが何ができるか、何をしなければならないかを話し合う機会をつくって欲しいとの強い要望がだされ、「世界子ども水フォーラム・フォローアップ大会」を開催することになりました。

平成15年度の広島から始まり、宮城、東京、昨年の丹沢と毎年度開催し、平成18年3月にメキシコで開催された「第2回世界子ども水フォーラム」には、7名の日本代表が参加しました。

これまで多くの子どもたちが参加し、同年代のネットワークの広がり、先輩から後輩への次世代への承継により、水問題に対して自ら考え活動する子どもたちの輪は確実に広がり、育っています。

今までの経験と成果を引き継ぎ、次世代を担う子どもたち自身の活動の更なる展開を期待して、「つなげよう水の輪～山・川・海そして人のつながり～」をキャッチフレーズに、「世界子ども水フォーラム・フォローアップin福岡」を筑後川流域の福岡県筑前町の国立夜須高原青少年自然の家をメイン会場として開催しました。

# 開催目的

1. 世界子ども水フォーラム(京都、メキシコ)及びフォローアップ(広島、宮城、東京、丹沢)における経験及び成果を引き継ぐ。

3. フォローアップの開催によって、子どもたちの水に関するネットワークを構築する。(同じ仲間がいることを知る。)

2. 水に関する活動を広げていくために子どもたちができるることを議論する。

4. 次世代を担う若者たち、子どもたちを育成する。

# 開催概要

開催日程 平成19年8月6日(月)～8日(水) 2泊3日

開催場所 福岡県朝倉郡筑前町 国立夜須高原青少年自然の家

主 催 世界子ども水フォーラム・フォローアップin福岡 実行委員会

共 催 (財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

後 援 文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、

福岡県、福岡県教育委員会、筑前町、筑前町教育委員会、

NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会

# 大会の様子

1日目

8月6日月



## 開会式

### 開会宣言(筑前町中学生4名)

みなさんようこそ筑前町へ！筑前町は緑豊かな町です。農業が盛んで、近くに三連水車や筑後川などがある、水に関わりの深い町です。僕たち私たちは、人や動植物が生きていくために欠かすことのできない水について、自ら調べ、考え、学ぶためにここに集まりました。

今日からの三日間、みんなといっしょに水について話し合い、そして様々な水問題の解決に向かって、今私たちができるを見つけて、私たち自身の活動のさらなる発展へつなげていきましょう！



開会式



駄田井委員長からのあいさつ

開会挨拶

### 開会挨拶(駄田井委員長)

水資源に関する問題は、私たちにとって非常に大きな問題になっています。20世紀は石油を争う時代、そして21世紀は水を争う時代であると言われますが、インドの政治家マハトマ・ガンジーは「この地球は、人間が必要とするものは十分に与えてくれるほど豊かであるが、人間の欲望を満たすほど豊かではない」という言葉を残しています。誰にとっても貴重な水資源を大事に使おうという趣旨の下、この水フォーラムは続いてきました。今回のフォローアップでは、「つなげよう水の輪」をテーマにしています。たくさんの役割を持ち、たくさんのものをつなげている水について、次代を担うみなさたちにこの三日間、しっかり話し合い、楽しく勉強してほしいと思います。



手柴委員からのあいさつ

開会挨拶

### 歓迎挨拶(手柴委員)

ようこそ筑前町へ、そしてこの自然豊かな夜須高原においていただきました。心から歓迎を申し上げます。筑前町は、上水道をすべて地下水でまかなっています。無尽蔵ではない地下水資源を汚染しないように、そして再利用するために、筑前町には公共施設の下に数百トンの水を貯めて循環利用する施設があります。

全国から自分で手を挙げてこうして集まつたみなさんが、福岡や九州のことについて見たり聞いたり、体験したりしながら、水についてしっかり勉強し、有意義な三日間を過ごせるよう願っています。

委付



いよいよ始まるね～。

委付



みんな初対面で緊張気味

オリエンテーション



みんなよろしくね。

名刺交換タイム

委付



みんなと初対面

バス車内



バスの中で仲良くチーズ！

アイスブレイク



もう来ないわよ！

アイスブレイク



Let's DANCE!

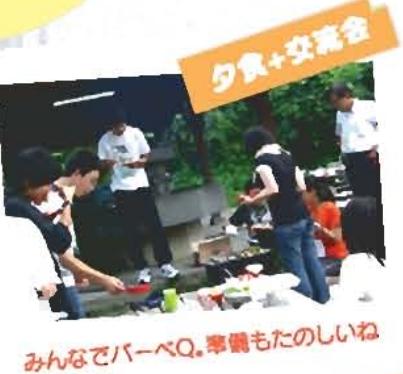
私のダンス、うまい  
でしょ？

Photo  
gallery  
フォトギャラリー

# 大会の様子

1日目

8月6日月

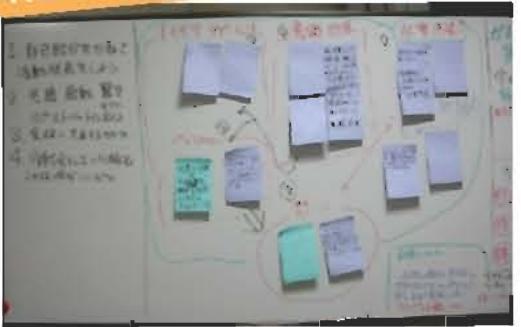


私達、お食事中



第3分科会のひとコマ

分科会中の風景



分科会中の風景



休憩タイム

分科会中の風景



分科会中の風景



遅くまでがんばったね

分科会中の風景



分科会中の風景



Photo  
gallery

# 大会の様子

2日目

8月7日火



## ● 体験活動

二日目は、2班に分かれて体験活動を行ないました。筑後川河口域の大川市付近にて「おかむら丸」に乗船し、干潟で泳ぐムツゴロウの姿や国指定重要文化財の「筑後川昇開橋」を見学するコース、もう1つは筑後川中流の朝倉市付近の国指定史跡である「山田堤」及び「三連水車」を見学した後、筑後川支川の佐田川にある「寺内ダム」を見学するコースです。どちらもここ福岡ならではの体験学習で、参加者の子どもたちは水の大切さや美しさ、昔の人々が築いてきた水との関わりなど、たくさんの新たな驚きや発見を得られたことでしょう。

おかむら丸内で



天気良くてよかったです♪

船上乗り込む



船までGO!



おかむら丸内

興味津々マット

日々の生活

日々の生活



これからもずっと友達でいようね

みんなで学ぼうね



第4分科会集合ー!

にわか撮影写真

楽しく学べたね~

こんな場面も…にわかるよ!

おもしろい

みんなで学ぼうね

この川にはいろいろな魚がいるね

Photo  
Gallery



藍藻防入口

Let's Go!

俺が一番似合うんじゃない?



中は涼しくて気持ちよかったです

筑後川堤防

さあーい

三連水車



三連水車を見る機会ないよね

寺内ダム



きれいな景色

寺内ダム



おやつタイム



寺内ダムレクチャー



みんなで学ぼうね

# 大会の様子

3日目

8月8日 水

## ●全体発表会



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会



第6分科会

世界子ども水フォーラム・フォローアップの福岡

8月8日



Photo  
gallery



秋田井委員長

## ●閉会式

### ● 調評(秋田井委員長)

私は、フォローアップ委員会への参加は初めてだったのですが、大人顔負けのアイデアや、かなり専門的な手段を使った活動を行っている人がいること、みんなさんが水問題に対する関心の輪を広げるために大変心を砕いていることなど、とても刺激的で素晴らしい話を聞かせてもらいました。

自分が少數派で、マニアックだと甘われ悩んでいるという話もありましたが、新しいことや独創性のある仕事はたったひとりの強い信念から始まります。悩む必要はありません。100年、150年かかる仕事だとしても、また次の世代へつなげていけばいい。正しい行きにはいつか賛同を得られる日が来るはずです。

人の幸せは人とのつながりの中で育まれるものだと思います。今回のフォローアップでできたつながりを今後もいっそう充実させていってください。



山本都佳さん

### ● 子ども代表あいさつ(山本都佳さん)

私はフォローアップ大会に参加するのは初めてでしたが、おととい出会ったばかりの全国の中高生がお互いにしっかりと考え方や意見を持って、真剣に話していたのがとても印象に残っています。また、二日目の体験活動も自分たちの活動に多くのヒントを与えてくれました。この三日間で得た経験やつながりを私たちひとりひとりがそれぞれの地元に持ち帰って周りの人たちに伝えしていくとともに、人と環境、人と人との新たなつながりを広げていきたいと思います。最後に、三日間、私たちの話し合いがスムーズにできるよう、また楽しく過ごせるよう色々な工夫をしてくださったり、細々としたことにも面倒を見てくださったファシリテーターのみなさんはじめ、記録係や実行委員のみなさんに感謝の気持ちこめて、子ども代表あいさつとさせていただきます。



久保田委員

### ● 閉会あいさつ(久保田委員)

みなさんの発表の中で水環境を守るために法律や条例を作ってほしいという意見がありましたが、そういった規制を作らなくてもいいような日本にしていくことが必要ではないでしょうか。

そのためには、みなさんひとりひとりの活動を今後も経験していく、さらに輪を広げていくことが必要だと思います。私たちもみなさんのサポートをするだけではなく、いっしょに活動していきたいと思っていますので、今後とも宜しくお願いします。そしてまた、次回のフォローアップ大会や世界大会でみなさんとお会いしたいと思います。

# 第1分科会

テーマ  
**MAIN**

## 水問題等に関して私自らが行なっている活動

水や河川等に関する問題に対して、子どもである私たちが自ら行っている取り組みなど

### 話し合いの経緯

一日目はメンバーのこれからの抱負、キーワード、自分たちができる活動などを話し合い、アウトプットの方法をまとめるために付せん紙を用いてグループニングしていきました。二日目は、自分たちの活動が少数派でありマニアックに見られてしまうこと、興味のない人をどう巻きこむか、について改善策を話し合い、活動目標を決めました。発表形式は、メンバーのすがろく風自己紹介からアイデアをとつて、遊びを通して発表することになりました。

### 発表の内容

第1分科会は、昔話の桃太郎になぞらえた物語形式の発表をしました。鬼とは課題を指します。一番の課題だと考えたのは「わたしたちの活動をどう伝えるか?」ということでした。そこで、興味のない人にも関心をもってもらうためのアウトプットの方法を多く提案しました。しかし、このような活動はまだまだ少数派であることから、今後は自分たちからより積極的に伝えていくことが大切だということを伝えました。

### 質疑応答

Q.周囲の人たちに宣伝していくための具体案は何かあるか?

A.学校にポスターを貼つてもらったり、学校でクラブを立ち上げて仲間を増やすことなどが効果的ではないかと考えている。

### 委員講評

(久保田委員)

物語にたとえて、また課題を鬼にたとえていて非常に分かりやすい発表だった。自分たちの活動がマニアックで特別なものと見られ苦労しているという話があつたが、全国からこんなにたくさんの同志が集まっていることに自信を持ち、また勇気を持って活動を続けてほしい。

(森北委員)

みんなの活動が現状では少数派だということに自分も同じように悩んでいる。これらの活動がもっと理解されるよう、これからも輪を広げていく活動を続けてほしい。

### ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター  
池田 幸子  
いけだ さちこ

つい三日前までお互い知らない者同士で、素顔でうつむきがちな子も多かったが、素敵な締めぐり合い、同じテーマについて知恵を出し合い競り合った三日間を通して、新しい発見や活動を続ける勇気などを得たことを、みなさんの成長を見てはっきりと感じて感動しました。また、素敵な時間を支えてくれた周りの方々の協力に対する感謝の気持ちも忘れないでほしい。



記録係  
熊本 孝  
くまもと こう

この大会に参加して、皆さんとの水に対する熱意や、現状を変えたいという気持ちがひしひしと伝わってきた。自分も水に関する勉強をし、色々な活動に参加して、みんなに負けないようがんばっていきたい。



私たちの年代がいちばんに抱えている問題  
「私たちの活動 = マニアックなもの」とみられることがある  
この鬼のたたかひ方法

- 活動を行っている私たちが熱意や誠意を示すこと  
例)みんながスポーツに対する熱意=私たちの活動の熱意
- 自分の興味、関心の視野を広げること
- 興味の方向で違う人もいることを知る  
↓  
前向きに活動を考えられるようになる
- 真剣に話をする  
↓  
そうすれば“伝わる”



私たちには鬼たたかひの宝物をみつけました。  
それは、私たちの活動をよりよくするアイディア。  
活動を続ける勇気。  
そして、何より、  
全国で元気張る“けやく”(友達)です！

完



# 第2分科会

テーマ  
**MAIN**

## 水問題等に関して学校や所属団体で行なっている活動①

水や河川等に関する問題に対して、子どもたちが学校のクラブ活動や地域の活動団体に所属して行なっている取り組みなど

### 話し合いの経緯

一日目は分科会独自のルールや目標を決め、メンバーの自己紹介レポートの中から①良い点(面白い点)、②課題、③夢・希望・予定の三つに絞って発表を行ってもらい、メンバー間で感想やアドバイスを交換しました。二日目はその三点について出てきた意見をさらに分野・関係性のあるものに分類し、その中から発表したいことを選びました。発表形式は「TV番組やCMをもっと活用したい」という意見から決まりました。

### 発表の内容

第2分科会の発表は、CMも含む一連のテレビ番組として構成するというユニークな形式で行われました。水に関する活動を広げる「学ぶ・パクる・活かす・広報・つながり・仲間」という6つの循環の輪を提案し、そこから今回の水フォーラムで仲間から得たこと、ひとりひとりの今後の目標を発表しました。また、CMには子ども水党が登場し、党の公約という形に託してメンバーの水問題に対する願い、思いを伝えました。

### 質疑応答

Q.川を活用した体験学習ではどんなことをしようと思っているか?

A.小・中学生や地域の人たちと一緒に、ヨシを植えて水質浄化につなげたい。

Q.CODの調査は簡単にできるものなのかな?

A.パックテストを用いれば小学生でも簡単にできるので、体験学習にも利用できる。

### 委員講評

(池永氏く岩崎委員代理)

・参加者皆さんの川・水に対する意識の高さに驚いています。ぜひその熱意を持ち続けて輪を広げていき、川を大切にしてほしい。

(江崎委員)

・各自が自分の意見をまとめて発表したことは大きな実り。これをチャンスととらえて、今度は皆さんのが地域のファシリテーターとなってがんばってほしい。

### ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター 福嶋 康司 こうじ

日々毎に、メンバー全員が活発に意見を出し合い、メンバー全員が主体的に最後の発表まで分科会を進められるようになっていった。その姿に心を打たれ、また、たくさんのことを学ばせてもらった。皆さんもここで学んだこと、ここでできた仲間を大切にして、これからも自信を持って活動を続けてほしい。

皆さんこの大会で得た大事なものを次の世代につなげていきながら、将来スタッフとして活躍してくれるようになれば嬉しい。いたらない点もあったが、支えてくれた第2分科会のみんなに感謝している。



記録係 灰塚 栗苗 はいづか かなえ



# 第3分科会

テーマ  
**MAIN**

## 水問題等に関して学校や所属団体で行なっている活動②

水や河川等に関する問題に対して、子どもたちが学校のクラブ活動や地域の活動団体に所属して行なっている取り組みなど

### 話し合いの経緯

一日目はメンバーの自己紹介レポートを発表してもらいながら、活動するようになったきっかけと、共通点について話し合いました。二日目は自分たちの活動を振り返り、「できしたことできなかつたこと」について意見を出し合いました。そして、今後の発展・改善のためのアイデアを出し合いながら目標を作り、目標を達成するための活動について議論しました。

### 発表の内容

自分たちの行っている活動の中でできしたこととして、EMを用いた活動や清掃活動によって「水質浄化に役立っていること」、まだできていないこととして「生きもののすみかを作る」「周りの人たちの水に対する関心を高める」ことを挙げました。そこで、「Step up」するためのまとめとして、「積極的に決してあきらめず 仲間で協力して工夫をしながら 輪を広げる」というテーマをみんなに発表しました。

### 質疑応答

Q.どんな時に自分たちの思いが周りの人たちに伝わっていないと感じるか？

A.清掃活動を行っている人たちがゴミを拾っても拾ってもまた捨ててあり、モラルやマナーがまだ浸透していないと感じる。

### 委員講評

(江崎委員)

三日間とも楽しく参加させてもらった。次世代のリーダーが育つてきていることに目を瞠る思いがする。次は運営スタッフ、ファシリテーターとして参加したいと思った子もいると思う。それぞれの活動を互いに話し合って認め合い、学び合っている熱気が、日を追う毎にひしひしと伝わってきた。今回の参加で皆さんは大きく成長したと思う。今後も大いに期待している。

### ファシリテーター・記録係のコメント

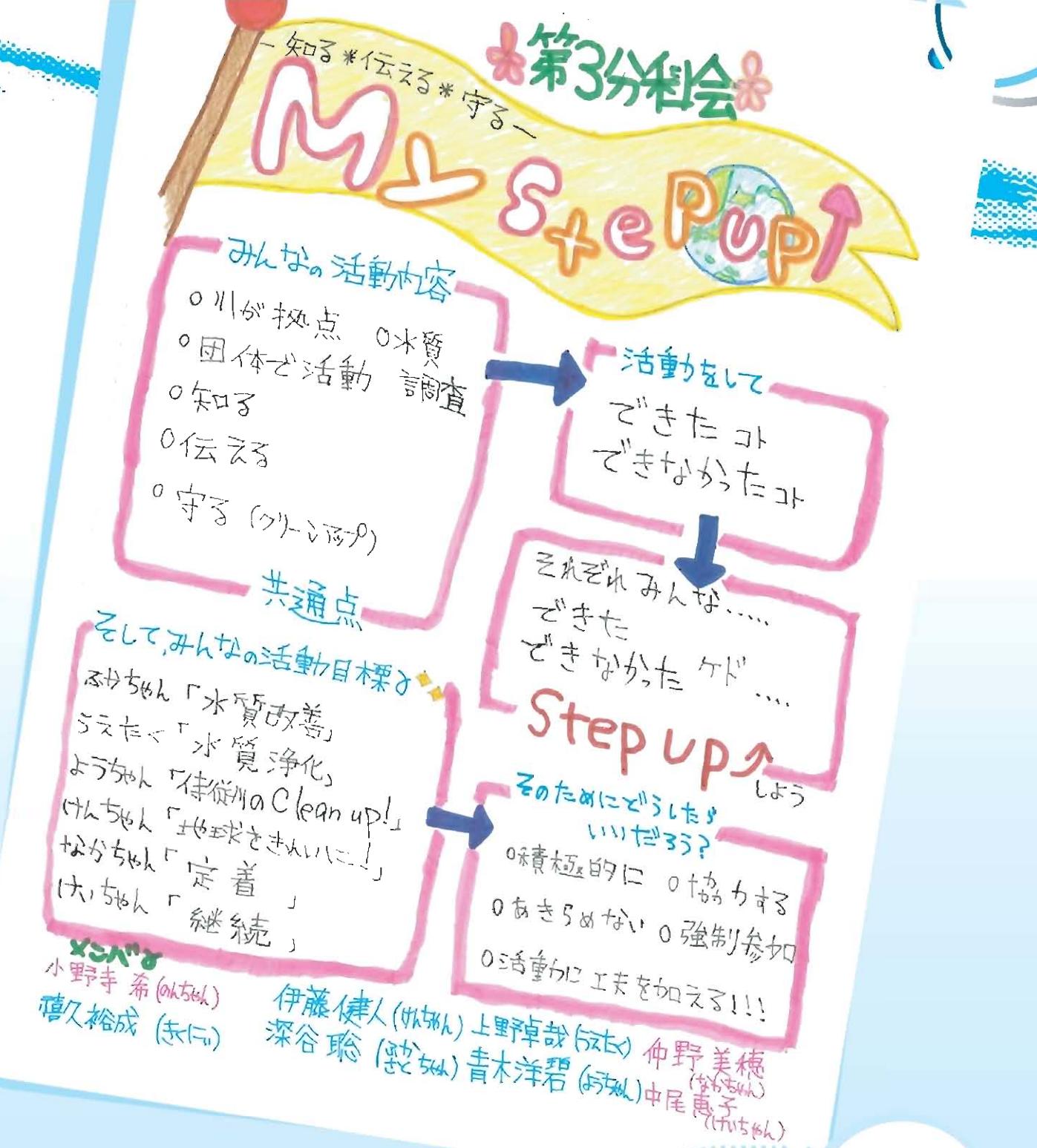


ファシリテーター  
小野寺 希  
おのでら  
のぞみ

初日は何を話せばいいのか、何をすればいいのか分からぬ不安や緊張があったと思うが、二日目の夜にはみんなが打ち解けて自分たちだけでもまとめられるようになり、言いたいことを言い合える仲になってくれたことがとても嬉しかった。勇ましくうまくいかなかった部分もあるが、この大会で得た成果や新たな課題を活かして「ステップ・アップ」した皆さんと次の大会でまた会いたい。



記録係  
植久 裕成  
きく ひろなり



どんな風に  
書こうかな~



# 第4分科会

テーマ  
**MAIN**

## 水問題等に関して学校や所属団体で行なっている活動③

水や河川等に関する問題に対して、子どもたちが学校のクラブ活動や地域の活動団体に所属して行なっている取り組みなど

### 話し合いの経緯

一日目は自己紹介レポートを用いて、目的・方法・問題点などを主に発表してもらいながら意見交換をし、「協力者を増やしたい」「きっかけが大事」などの共通点から、「どうしたらきっかけを作っていくか」をテーマに設定しました。二日目は体験活動を振り返りながら、どのようにきっかけを作っていくかを議論し、発表方法、発表する内容をしぼりこみました。

### 発表の内容

第4分科会は、環境活動に取り組む7人の挑戦者たちがゲストとして登場し、各自の活動を発表するというテレビ番組形式で行われました。「自分たちがきっかけになりたい」という思いを持っているメンバーが、現在行っている活動、そしてどのようにして周りの人たちにきっかけを広げていったのか、そのアイデアと方法をみんなに提案しました。

### 質疑応答

- Q.イベントをやりたいと発表した人がいたが、具体的にはどんなことをしたいか？  
 A1.春なら野草を探って調理して食べたり、夏なら川下りをしたりして、季節に合わせたイベントをやっていきたい。  
 A2.小・中学生向けの環境会議を企画しているので、今大会で学んだことを活かしたい。

### 委員講評

#### (野見山委員)

昨日の様子から見たら、本当にまとまるのかなと心配だったが、発表はとても立派で夢があり、心強い限り。継続は大きな力になるので、皆さんのが今行っている活動をベースにし、夢と感動を持って、学校や地域を動かす原動力になっていってほしい。

#### (銅田委員)

行政を含め、なかなか協力者が増えない現状があるが、水問題に対して関心と目的を持って活動している人は全国にいる。あなたたちの活動を見ている人たちはちゃんといるということを忘れないでほしい。これからもきっかけを作り協力者をどんどん増やしていくほしい。インターネットを利用している人も何人かいるようなので、そういった部分でもつながつていけたらいいと思う。

### ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター  
武田 行剛 だけだ ゆきたか

初日はみんな緊張もあって唇かだったので、自分が引っ張っていかなくてはと懸念したが、最後には他の気持ちを察してくれたのか、子どもたちだけで分科会を進めてくれるようになって嬉しかった。第4分科会は「きっかけ」キーワードに興味したが、「やりたいけどきっかけが見つからない」という人もいる中で、皆さんのはきっかけに出会い、こうして集まることができた。それはとても大事なことで幸せなこと。その幸せを周りの人たちに分けてあげてほしい。



運営スタッフとして参加したのは初めてで、うまくやれるか不安があったが、皆さんフレンドリーで仲良く接してくれてとてもありがたかった。

子ども水フォーラムの参加自体が初めてだったので、とても緊張して荷物にやってきたが、皆さんにお世話になり、楽しかった。



記録係  
武田 和彦 かずひこ

# 第4分科会 どうしたらみんなのきっかけになれるか? プロジェクト

協力者となる「あさう」皆様へ

本連第4分科会は、全国各地の環境に興味のある皆さんに遊びに参加する、かけっこを提案します。

平成19年8月8日

### プロジェクト① ふみちゃん(山本郁佳)

- 高校の生物部に所属し、かくやさの人工養魚場を地域へちゃんと伝えようとして生態調査している。
- 夏休みに夏祭り実験会を開いている。
- 観察会と奉仕ごとに行事を行なう。
- 子ども達と環境に関する話し合いで行なう。

### プロジェクト② あっちゃん(菊池淳仁)

- 土木研究クラブで、舗装材を検査をして炭をつくった。
- つくった炭をネットに入れ、沂所の川に設置して川を浄化している。
- 活動を見てもらったり、体験に参加してもらう。

### プロジェクト③ じょちゃん(鈴井翔平)

- 川の清掃、調査、イカダを作り川くたりをしたり、キャンプをしたりしている。
- 北沢山の人に生き物を捕まえたり、イカダを作り川くたりする乗合を伝えます。

### プロジェクト④ みーちゃん(鈴木未来)

- 以前エコクラブに所属していた経験を活かして、子どもの環境会議の強行に挑戦している。
- 環境に興味を持てもらえるような会議を企画する。

### プロジェクト⑤ りゅうちん(橋本隆太郎)

- 今まで小中学生を対象にした、自然と触れ合うイベントを開いている。
- 季節に合った内容のイベントを行う。
- 友達などを説く。

### プロジェクト⑥ くづちゃん(黒川将)

- 月1回のペースで、上地域の清掃活動を行っている。
- 自分の周りの人から呼びかけて、その人達のきっかけになりたい!
- 呼びかけて参加者がどんどん増えてほしい。

以上のプロジェクトに沿って、本連は

それぞれの地域で活動していきます!

### プロジェクト⑦ たけちゃん(武田行剛)

### 運営スタッフ おれ みやちゃん(宮崎和音)

### ゆきちゃん(甲斐由貴)



# 第5分科会

テーマ  
**MAIN**

## 自分たちが将来的に取り組むべきこと

水や河川等に関する問題に対して、子どもである私たちが将来的に取り組むべきことや、取り組みたいことなど

### 話し合いの経緯

一日目は独自に作成した自己紹介シートと感想シートに記入してもらい、それぞれ発表し合って感想・関心を共有することで分科会の方向性を決めていきました。次に出てきた意見をカテゴリーごとに分類し、その関連性について討論しました。二日目は新たな意見を加えながら新しい分類表を作成し、4つのセクションに分けて、それをさらに肉づけしていきました。

### 発表の内容

はじめに、話し合いを進める中で出てきた「水環境に関する意識の薄さ」「水質汚染」というふたつの課題についてのメンバーの思いをみんなに伝えました。そして、現在各自が行っている課題への取り組みとして、「環境に関する勉強会に参加」「ヨシの植樹や清掃活動」「炭を用いた水質浄化活動」などを挙げ、将来的にやってみたいことを、発信・行政・知識・環境整備の4つのテーマに分けて提案しました。

### 質疑応答

Q. 地元に戻ったらまず誰に今大会で得たものを伝えたいか？また、どのように伝えるか？

A1. 学校の先生。自分が行っている活動の良さを理解してもらえば、校内にポスターを貼らせてもらえるし、活動の輪も広がると思う。

A2. 夏休み後、学校の意見文発表に今回のフォローアップで学んだこと、水問題のことなどを発表したい。

### 委員講評

(宮尾委員)

多くの参加者がゴミ拾い活動をしており、地道で素晴らしいと思う。ただ、現状の嫌な部分だけが見えてしまうということもあるので、川の良さを探す、発信する活動も、大人たちと協力しながら行ってほしい。

(鍋田委員)

ゴミ拾いは重要な活動のひとつだが、それを子どもたちも楽しんでできるようなものと組み合わせた活動が提案できればもっと輪が広がっていくと思う。

### ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター  
小堀 道 こほり すゑむ

最初に博多駅で皆さんとお会いした時は黒髪でガチガチだったので、三日間どうなるかと心配だったが、こうして無事にけがもなく楽しく話し合うことができてよかったです。この水フォーラムは実行委員や事務局の方々も含め家族のように話合いができる。このつながりを、皆さんのが地元に戻った時に一人でも多くの人にアピールして轍を広げていってほしい。



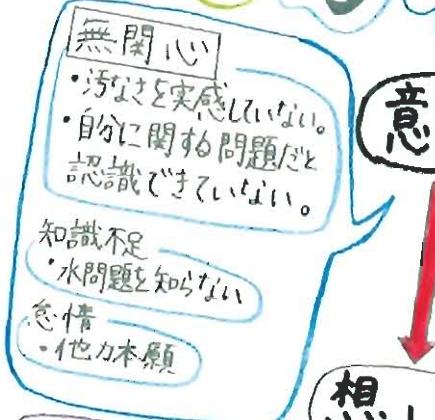
ファシリテーター  
佐藤 裕基 さとう ひろき

今回初めてファシリテーターとして参加したので不安いっぱいだったが、小堀さん、西川さんと協力し合ってながら、また助けてもらっているうちに何とかやってこれた。初参加の子が多くて、この大会に自分が参加者として初めて参加した時のことを思い浮かべながら、分科会が盛り上がりしていくよう努めた。この大会にはまた何らかの形でサポート役として関わっていきたい。

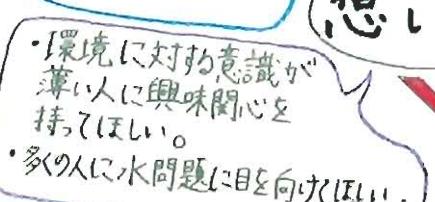
記録係  
西川 文香 にしかわ ふみか

初参加だったので、初めは皆さんに不安を感じないようにとがんばっていたが、後半はみんなのおかげで自分もいっしょになって楽しむことができた。

# 第5分科会



水質



想い



知識・調査・水の浄化

将来やっているコト

各自でやっているコト

知らないかったコト

将来的にやるべきコト

環境整備

人を入れ替わり

生き物が生息できる水田

少動物増加

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができるコト

知識系

教科側に立つ

分かりやすい勉強会を作り

知識を深めら

行政系

規制・法律や条例

環境団体の設立

発信系

インパクトのある活動

(ex. ホタルなど)

子供ができる

# 第6分科会

テーマ  
**MAIN**

## 子どもたちのネットワークを広げるための活動

水や河川等に関する問題に対して、関心をもってもらい活動に結びつけていくために必要な、子どもたちからのネットワークづくりに関する取り組みなど。

### 話し合いの経緒

一日目はA4用紙に「現在行っている活動」と「一番伝えたいこと」を書いてもらって発表し合いました。それをもとに共通点、魅力的なところを書き出し、分科会のテーマと3つのキーワードを決めていきました。二日目は各自の活動が実は互いに関わり合っていることを話しながら、ネットワークを広げるための活動についてKJ法などを用いてまとめていきました。

### 発表の内容

第6分科会は、メンバー各自の現在の水に関するつながりを、自分を中心とした図にして分かりやすく整理したことによって、個人の活動だけでは限界があることを認めました。そこで、関心・活動の輪を広げるために、「水を大切に」「川をきれいに」「水で遊ぶ」という3つの目標となるキーワードを考え、夏休みの宿題として、3つのキーワードがより重なるような活動を行うことを力強く宣言しました。

### 質疑応答

Q.大人や行政とはどのようにつながっていこうと考えているか？

A.地元の新聞などのマスコミを活用したり、地元の行政が主催している交流イベントで活動を発表するなどして、つながりを作っていくことが大切だと思う。

Q. '水で遊ぶ' の具体案としてどんなことをしてみたいか？

A.自分たちで炭を作り、それを用いて楽しみながら川をきれいにする活動を計画中だ。

### 委員講評

(駿田井委員長)

・それぞれの活動や今後やりたいことを簡潔に上手く説明できていた。各自の課題をきちんと発表したところもよかつた。“3つのキーワード”をつなげたいという発表があつたが、どのようにしてつなげるかという部分の発表があればもっとよかつた。

(森北委員)

・3つの行動目標を掲げたが、それらをつなげ、活動の輪を今後さらに広げていくための具体的なアクションをもつとを考え、実践していくことを期待したい。皆さんの活動は非常にアピール力があるので、マスコミ等を活用すればいっそう輪が広がっていくと思う。

### ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター  
坂本 貴啓  
さかもと たかおき

第6分科会は口数が少ない子多かったが、同じ時間を過ごすうちに、皆さんにただ静かにしているのではなく、一生懸命考えていること、こんなことをしたいという想いに満ち溢れていることに気づき、それを何とか引き出せるようがんばった。発表の中で、メンバー各自の課題を実行することを宣言したが、ここにいる皆さんも残りの夏休みを活かして自分にひとつ課題を課し、それを実践してほしい。そして、次の世界大会に向けて、日本から世界へ自信できるよう活動を続けてほしい。



記録係  
中尾 浩子  
なかお ひろこ

初めて運営スタッフとして参加したので緊張したが、参加した皆さんが良い子ばかりで仲良くなれたのでとても楽しかった。次回のフォローアップ、世界大会でまたお会いできたら嬉しい。

# 河童と6匹の夏休み

EMに沿って川が流れ  
され、その活動が地域の  
住民に広がっていました。  
全国の人々にEMに関心  
をもてほしい。  
フェガー

・愛でる渓流に挑戦する(フェガー)  
・ゲリラで全国の水辺紹介(アミ)

クリーンアップをし、  
生物が住めるようまわい  
な川になり、ボランティアも  
減った。  
誰もが遊べるようやな川が  
川にいたり、  
ベビちゃん



### 第6分科会メンバー

廣瀬 恵子(ひづ)

鈴木 彩永(すずき)

黒瀧 智大(くろさき)

佐藤 大地(さとう)

多部田 光司(たべた こうじ)

湯澤 祐太(ゆざわ ゆうた)

坂本 貴啓(さかもと たかおき)

運営スタッフ

中尾 浩子(なかお ひろこ)

水をもっと  
大切に  
しよう！





## 世界子ども水フォーラム・フォローアップin福岡に参加して (大会のアンケート結果より)

世界子ども水フォーラム・フォローアップin福岡の参加者38名に、参加しての感想等についてアンケートを行いました。ほとんどの参加者は、参加したことが、なんらかの刺激となり、活動意欲へつながっていることがわかりました。また、今大会が同じ活動の仲間としてのネットワーク形成のきっかけづくりにも寄与していると考えられます。

### 今後の活動について

今回の大会に参加したこと、さまざまな知識や経験・刺激を受け、今後の活動を考えるきっかけとなったようです。自分自身が行う活動に加えて、仲間を増やす活動、知識や経験を伝える活動などへの意見が多く見られました。

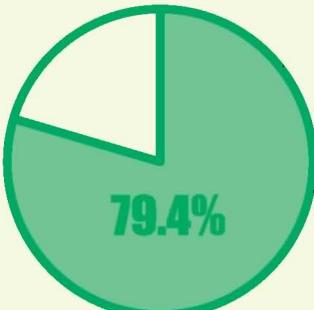
#### 参加して得られたこと

参加者の多くは、新たな仲間ができ、また、新たな知識や情報を得ることができたようです。



水問題等に興味を持つ新たな仲間ができ、ネットワークが広がった。

水問題等に関する新たな知識や情報を得ることができた。

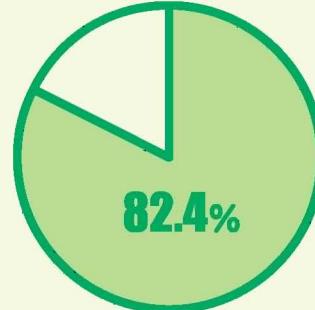


他の参加者の活動状況を知り参考になった。

さらには、「改めて水が大仰だと思った」「今後も自分の活動を続けていこうという意欲が湧いた」「今回得た知識や経験を自分の地域に持ち帰り伝えようと思った」といった意見も多く見られました。

#### 参加した仲間について

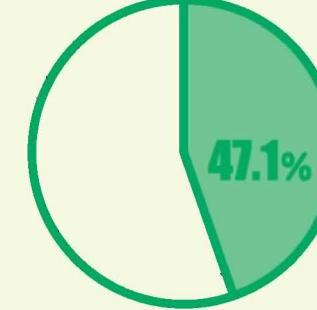
今回のフォローアップ大会に参加して、出会った仲間については、参加者のほとんどが互いに刺激になったと感じているようです。また、同じ仲間として自らの活動への自信にもつながっているようです。



みんなしっかりとした考え方をもっていた。

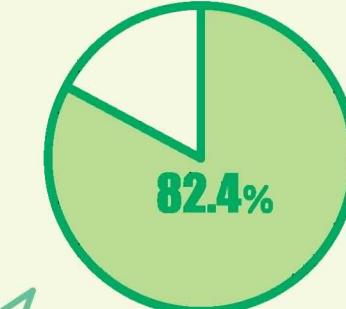


自分の今後の活動に大変刺激になった。

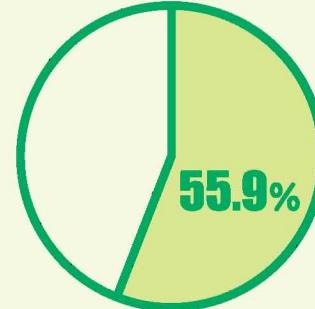


同じ興味を持つ仲間がいることを知って、安心した。

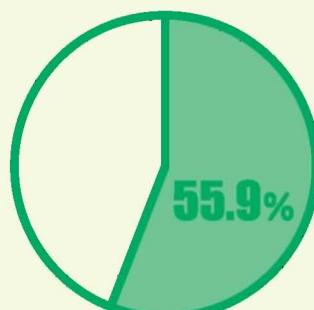
さらには、「活動のレベルが全体的に高かった」「楽しめやすかった」といった意見も多く見られました。一方、分科会に分かれての活動であったためか、「他の分科会の人との交流があまりできなかった」といった意見もありました。



関心のない人たちへ川や水の魅力を知ってもらう活動をしたい。



地域の同級生や大人などに自分の活動を伝えたい。

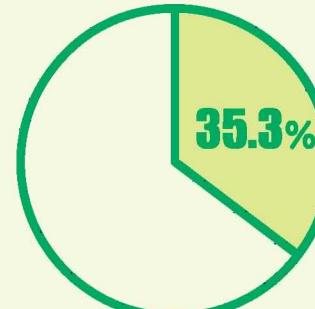


フォローアップ大会参加者が主体となった団体があれば参加したい。

さらには、「自分の学校をもっと巻き込みたい」「自分自身の知識や経験・スキルを高める活動を行いたい」といった意見が多く見られました。



来年もフォローアップ大会に参加したい。



次の世界大会を目指したい。

また、次回フォローアップ大会が開催されれば、今回の参加者の多くがまた参加することを希望しており、さらには、約1/3の参加者が、2009年3月に開催される世界大会を目指したいとしており、同じ関心を持つ世界の仲間と交流したいといった意見も見られました。



## 関連ウェブサイトのご紹介

### 【子どもの水辺サポートセンター】 (財)河川環境管理財団

文部科学省・国土交通省・環境省・農林水産省等と連携し、様々な支援策を通じて、地域で活動する学校の先生や市民団体の皆様の活動を支援しています。

<http://www.mizube-support-center.org/top.html>

### 【カワナビ】 国土交通省

川の文化や歴史・川に棲む魚や生き物・川に関する市民ボランティア活動・川の災害対策や汚染対策・川の行政情報など、川に関連した広範囲の情報を提供しています。

<http://www.mlit.go.jp/river/link/kawanavi/index.html>

### 【川に学ぶ体験活動協議会(RAC)】

川での体験活動を支援・推進する活動を総合的に展開しています。

特に「指導者育成」や「子どもの水辺安全講座」などの教育活動に力を入れています。

<http://www.rac.gr.jp/index.html>

## 参加者一覧

都道府県	名 前	性別	学年	分科会
北海道	山本 郁佳	女	高2	第4分科会
青森県	黒滝 智大	男	高2	第6分科会
青森県	中井 怜	男	高2	第1分科会
青森県	三和 優大	男	高2	第5分科会
宮城県	中村 翔也	女	高2	第5分科会
福島県	深谷 聰	男	高2	第3分科会
福島県	山崎 郁	男	高2	第2分科会
福島県	吉田 尚弘	男	高2	第1分科会
福島県	佐藤 大地	男	高3	第6分科会
茨城県	門口 光司	男	中3	第2分科会
栃木県	上野 卓哉	男	高3	第3分科会
栃木県	鈴木 彩永	女	高2	第6分科会
栃木県	金子 一樹	男	高2	第5分科会
栃木県	菊池 淳仁	男	高2	第4分科会
栃木県	岡田 浩	男	高2	第2分科会
神奈川県	青木 洋碧	男	中3	第3分科会
神奈川県	山下 佳大	男	中3	第1分科会
神奈川県	綾部 翔平	男	中3	第4分科会
神奈川県	多部田 光司	男	中3	第6分科会

都道府県	名 前	性別	学年	分科会
神奈川県	中野 知治	男	中3	第5分科会
岐阜県	柳原 未奈	女	高2	第4分科会
静岡県	鈴木 理恵	女	高1	第5分科会
愛知県	伊藤 健人	男	中1	第3分科会
京都府	上村 真由佳	女	高1	第1分科会
愛媛県	山下 奈津実	女	高2	第4分科会
愛媛県	西岡 晴菜	女	高2	第2分科会
福岡県	瀬戸 渥太	男	中3	第1分科会
福岡県	溝神 啓太	男	高2	第6分科会
福岡県	松尾 扶美	女	高3	第1分科会
福岡県	仰野 美穂	女	高1	第3分科会
福岡県	橋本 隆太郎	男	高2	第4分科会
福岡県	曾根 裕子	女	中2	第2分科会
福岡県	中尾 恵子	女	中2	第3分科会
福岡県	黒川 将	男	中3	第4分科会
福岡県	小崎 香奈	女	中3	第2分科会
福岡県	上野 まりこ	女	中3	第5分科会
福岡県	廣瀬 聰子	女	中3	第6分科会
鹿児島県	近藤 大地	男	中3	第1分科会

## 実行委員・運営スタッフ一覧

役 割	氏 名	所 属
実行委員長	駿田井 正	久留米大学 経済学部 教授
実行委員	江崎 美津子	(社)ガールスカウト日本連盟 福岡県支部長
実行委員	野見山 みち子	NPO法人 直方川づくりの会 理事長
実行委員	鍋田 康成	NPO法人 筑後川流域連携事業部 事務局長
実行委員	杉光 誠	福岡県 教育庁 教育企画部長
実行委員	岩崎 泰彦	福岡県 土木部長
実行委員	手柴 豊次	筑前町長
実行委員	久保田 勝	国土交通省 河川局 河川環境課長
実行委員	森北 佳昭	国土交通省 九州地方整備局 河川部長
実行委員	入江 靖	国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所長
実行委員	宮尾 博一	(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター長
アドバイザー	舟橋 弥生	国土交通省 河川局 河川環境課 課長補佐
アドバイザー	太田 敏之	国土交通省 河川局 河川環境課 河川環境教育係長
アドバイザー	朝田 将	国土交通省 九州地方整備局 河川環境課長
事務局	鎌田 照章	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	吉野 英夫	(財)河川環境管理財団 研究第一部次長
事務局	辻 正宏	(財)河川環境管理財団 研究第一部研究員
事務局	吉川 泰司	(財)河川環境管理財団 研究第一部研究員
事務局	土井 康義	(財)河川環境管理財団 研究第一部研究員
事務局	花田 須磨子	(財)河川環境管理財団
事務局	橋本 仁美	(財)河川環境管理財団
事務局	菅原 一成	(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	中山 尚	前(財)河川環境管理財団

役 割	氏 名	所 属
ファシリテーター	池田 幸子	京都教育大学
ファシリテーター	福崎 康司	京都大学
ファシリテーター	小野寺 希	酪農学園大学
ファシリテーター	武田 行剛	大阪府立大学 大学院
ファシリテーター	佐藤 裕基	旭川医科大学
ファシリテーター	小堀 進	NPO法人 直方川づくりの会
記録係	熊本 亨	横浜市立大学
記録係	灰塚 果苗	日本大学
記録係	遠久 裕成	筑波大学
記録係	宮崎 和彦	明治大学
記録係	甲斐 由貴	久留米大学
記録係	西川 文香	大阪府立大学
記録係	中尾 浩子	横浜市立大学